

北海道～鹿児島へ ～87歳おばあちゃん一人旅～

中央区・中央支部
(高見馬場Junクリニック) 小田原淳子

このおばあちゃんのお名前もお顔も存じません。天文館からタクシーを拾い、たまたま乗ったタクシーの中で運転手さんから心温まるお話をうかがいました。

高齢者による運転免許証返上のお話をしていた時に、運転手さんが、こんなことがありましたと・・・。

ゴールデンウィークの半ば、一人のおばあちゃんが、お客様で乗られました。運転手さんのお話のきっかけとしては、まあ、普通に、「どちらからいらっしゃいました？」と決まり文句です。

『北海道からです』

「ずいぶん遠くから。飛行機でいらしたのですか？」

『いえ、車を運転してきました』

「北海道から鹿児島までずっとですか？」

『はい、3日半かかりました。』

『えっ！ おひとりで？』

ここから、おばあちゃんの旅行の目的が話されました。

このおばあちゃん、ご主人とお二人で日本国中あちこちドライブを楽しまれ、運転も二人でかわりばんこにされたそうです。ところが、どういう訳か、天気の都合か、何かご用が急に入ったか、宮崎まではドライブで来ましたが、鹿児島だけ行けなかつたのです。

このご主人が4～5年前、体調を崩されて、元気になつたら鹿児島に行こうと励まして看病されましたが、その希望は叶わず、永眠されました。

おばあちゃんは、気分が落ち込み、車の運転を止めてしまいました。

そんな日が続き、2年程たつた時、夢で、

おじいちゃんが、「おまえ行ったか？行つたのか？」と聞くのだそうです。

そう、心残りだった鹿児島に行ったかと尋ねたのです。

ぱっと目が覚めて、鹿児島に行かなくてはと思ったのです。それから、再び、車を運転するために、2年間のギャップを取り戻すため、自動車教習所に通われました。

おばあちゃんには子供さんが4人いらっしゃいましたが、全員、この旅行には大反対。危険すぎると。

それは、もっともなことと思います。ただ一人、長男のお嫁さんが、これだけ行きたがっているのだから行かせてあげたらと賛成し、ただ一つ約束を守ってください。毎日1回は、携帯で電話連絡して下さい。これで、出発できることになりました。

おばあちゃん、車のエンジンをかけ、ハンドルを握ると、心躍り、体にエネルギーが満ちあふれ、北海道から鹿児島に向けて出発しました。日本国中、どこへ行っても、皆、やさしい人ばかりで感激されていました。鹿児島に入る前に、熊本の黒川温泉でゆっくりしてから、いよいよ鹿児島に向いました。

お天気のよい日でした。鹿児島で桜島を見た時には涙がこぼれたそうです。

鹿児島市内と指宿の砂むし温泉にタクシーで観光されたのですが、ご自分の車はどうしたのか聞くと、帰りの準備をしっかりするために車を点検に出していらしたそうです。そのディーラーさんも、北海道ナンバーのおばあちゃんの車で、旅の目的も聞かれたのでしょうか。一緒に記念撮影をして、無料点検になったそうです。

ゴールデンウィークの車が渋滞する時に、無事に北海道までお帰りになられたでしょうか。これで、運転は終わりにするとおっしゃったそうです。きっと、北海道のおじいちゃんのお墓に直行して、鹿児島への旅の報告をなさったことでしょう。

運転手さんの、このお話が終わるころ、大学病院に着きました。87歳とは思えない、若く、シャキッとした方だったそうです。

自分の目的を持った生き方はすばらしいですね。

